

2019年11月1日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 谷本 寿男

インドネシア国ジャワ北幹線鉄道準高速化事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2019年10月11日(金) 14:00~17:07
- ・場所：JICA 本部 (1階 111会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、谷本委員、日比委員、
- ・議題：インドネシア国ジャワ北幹線鉄道準高速化事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 1. インドネシア国ジャワ北幹線鉄道準高速化事業(協力準備調査(有償)) SC案資料
 2. 回答表及び別添資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第107回委員会)

- ・日時：2019年11月1日(金) 14:00~17:01
- ・場所：JICA 本部 (1階 113会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 今までに整備・改良が進められてきているジャワ北幹線の既存路線での整備・改良事業をさらに進める案ではなく、今回新たに単線狭軌腹付線を建設する本事業の必要性・妥当性をより明確に DFR に記述すること。
2. 事業区間を準高速化することの具体的な意義と妥当性について DFR に記述すること。
3. DEMU（新型電気式気動車）そのものの技術的・価格的な観点のみならず、信頼性や安全性、さらには車両の点検・修理といった維持管理の観点から、DEMU の導入が妥当であると判断する根拠を DFR に記述すること。

代替案検討

4. 市街地は高架、郊外地は PSRC(パイルスラブ鉄筋コンクリート路盤)を採用するという原則が示されているが、自然災害の影響（洪水、地震、火山噴火等）も確認した上で、具体的にどこを高架にするか判断し、その結果を DFR に記述すること。

スコアリングマトリックス

5. 本事業の実施に際し、既存の橋の改修や橋梁の新設に伴って河川への何らかの変化が生じる場合、それらが住民の生活及び生計（例えば、住居、洗濯の場あるいは生活水としての利用、子どもの遊び場、釣り、漁業、養殖等）に与える影響を可能な限り確認し、必要な緩和策と共に DFR に記述すること。
6. 地盤沈下が想定される地域においては、工事前後ならびに供用時における地下水の利用状況を確認し、その結果を DFR に記述すること。
7. より多くの乗客が利用できるよう配慮した乗車賃の設定を行い、DFR に記述すること。
8. 建設機械に対する排出ガス規制（オフロード規制）は、日本、EU、米国等の先進国で実施されており、国際基準になりつつあるため、本事業における実行可能性を検討し、その結果を DFR に記述すること。

社会配慮

9. ジャワ島は人口密度が高く小規模あるいは零細な活動をしながら生計を立てている人々が多く、事業の路線全長は 700 km を超える。そのため RAP の作成にあたっては、そのような生計を営む人々への影響について注意深く調査を行い、必要に応じて緩和策を検討の上、その結果を DFR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

10. 対象路線の長さを考慮に入れるとステークホルダー協議の実施予定箇所（7 か所）に加

えて補完的な措置が必要でないかと思われる。そのためインタビュー等の社会調査の手段も活用しながら、本事業によって影響を受ける人たちのより幅広い意見を可能な範囲で収集すること。

11. ステークホルダー協議開催地選定の理由と背景を DFR に記述すること。

その他

12. IC カードの利用等ソフト面のアイデアを検討し、その結果を DFR に記述すること。

以上